

令和7年12月11日

瀬戸内市議会議長

小野田 光 様

瀬戸内市議会議員 厚東 晃央

### 政務活動費研修報告書

政務活動費を使用して、次のとおり研修活動をしましたので、その結果を報告します。

期間	令和7年10月31日(日)
研修会名	令和7年度情報教育対応教員研修全国セミナー 第9回 教育セミナーin おかやま
開催場所	岡山コンベンションセンター(岡山市北区駅元町14-1)
研修内容	○基調講演 教育の情報化の現状と今後の展望 講師 文部科学省 初等中等教育局 学校情報基盤・教材課長 寺島史朗 ・人口減少・少子高齢化の現状と課題 ・グローバル化の現状と課題 ・社会の急速なデジタル化の現状と課題 ・人生100年時代の現状と課題 ○パネルディスカッション 教育DXを県域で考える「GIGAスクール構想 第2期学習基盤整備」 コーディネーター 一般社団法人 教育ICT政策支援機構 代表理事 谷 正友 香川県教育委員会事務局 義務教育課 教育情報化推進室 指導主事 中筋 修 島根県教育庁 教育連携推進課 教育DX推進室 指導主事 大屋 純一 ・教育DXでめざすべき姿について ・学校の基盤となる舞台について



	<p>○トークセッション 人口減少・少子化時代 地域とつくる子どもたちのための学びの場～日本一の公教育の町を目指す町～ コーディネーター 合同会社未来教育デザイン 代表社員 平井 聡一郎 北海道安平町教育委員会 教育長 井内 聖</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イエナプランの実践</li> <li>・安平町の取り組み</li> </ul> <p>○トークセッション 不登校支援の盲点 気づかずに傷つける言葉の影響とは？ ～不登校の状態が長期化する二次被害について～ コーディネーター 一般社団法人 教育 ICT 政策支援機構 代表理事 谷 正友 明るい不登校 代表 山本 りか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滋賀県草津市の取り組み</li> <li>・不登校の二次被害</li> <li>・子どもに死にたいと言わせないために大人ができること</li> </ul>
所感	<p>社会全体が少子高齢化、人生 100 年時代など過渡期であるときに文部科学省が進めようとしている教育の方針や教育DXの方針を知ることができる研修だった。</p> <p>こどもの取り巻く状況や国の動きをつかむことについては、こどものスマホ保有率が高い状況であり、こどもの保有率が進んでいることに対応できるようにすることが必要となる。規制などは必要だが、スマホを理解して、適切に対応していくことも必要になることを感じた。また、国において指導要領の改訂が進められている現状なども把握、情報を知ることが必要と感じた。</p> <p>少子化時代の学びの場を作る状況については、過疎化で人数が減少している地域の学校の実例が紹介され、これまでの学校とは違う形で取り組まれている自治体の様子を知ることができた。その実例では、人口7千人の自治体の中に一つの小学校、一つの中学校があり、地域住民と話し合いながら、住民とともに作る新しい学校が出来上がっていた。理想とする一つの形だが課題も多くと、わが市では導入は難しいと感じた。</p> <p>不登校の支援については、保護者への支援をしている自治体の取り組みの報告もあり、保護者が孤立せず、元気でいられるような支援を実施していた。また、「外出ができなくなる」「自殺を選ぶ」等二次被害の起こる事が課題と認識できた。研修の中で、学生時代に不登校だった当事者からの話しは、大人がしようとして考えている</p>

方針は不登校の子どものために良い方向にはならないことが多いことも発言されていて、支援の難しさを感じた。

教育は様々な課題があるが、国の動きもしっかり学びながら、わが市の状況に合う教育環境となるように議会や委員会でも取り上げ議論していく必要があると感じた。